

総務産業委員会報告書

令和6年11月11日

備前市議会議長 西 上 徳 一 様

委員長 森 本 洋 子

令和6年11月11日に委員会を開催し、次のとおり調査したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	調査結果	備考
1 移住・定住についての調査研究 ① 人口動向・定住促進について	継続調査	——
2 文化スポーツ振興についての調査研究 ① アメリカの歴史・伝統・文化を体験するツアーについて	継続調査	——

<報告事項>

- ふれあいの館かぜまちの指定管理について（日生総合支所）
- 海外巡回展について（市長公室）
- 図書館建設の進捗状況について（プロジェクト振興課）
- 職員の名札の改正について（総務課）
- 人事院勧告に伴う条例改正案及び補正予算案の提出について（総務課）
- 西片上駅の改修状況について（都市計画課）
- 旧アルファビゼン建設工事の進捗状況について（市街地活性化政策課）
- 河川のしゅんせつ及びしゅんせつ残土処分場の建設状況について（建設課）
- 浦伊部地区の道路整備の進捗状況について（建設課）

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
報告事項	2
閉会中の継続調査事件	22
移住・定住についての調査研究	14
文化スポーツ振興についての調査研究	20
閉会	26

総務産業委員会記録

招 集 日 時	令和6年11月11日（月）		午前9時30分	
開議・閉議	午前9時30分	開会　～	午前11時07分	閉会
場所・形態	委員会室	閉会中の開催		
出 席 委 員	委員長	森本洋子	副委員長	丸山昭則
	委員	尾川直行		石原和人
		山本　成		松本　仁
		内田敏憲		
欠 席 委 員		なし		
遅 参 委 員		なし		
早 退 委 員		なし		
列 席 者 等	議長	西上徳一		
傍 聴 者	議員	なし		
	報道	なし		
	一般	なし		
説 明 員	市長公室長	濱山一泰	市長公室参与	梶藤　勲
	備前焼振興課長	桑原淳司	プロジェクト推進課長 兼市街地活性化政策課長	祇園進太郎
	企画財政部長	榮　研二	企画課長	行正英仁
	総務課長	青木克行		
	産業建設部長	河井健治	都市計画課長	井上哲夫
	建設課長	藤森勝一	空家対策課長	江見清人
	文化スポーツ部長	森　　優	文化スポーツ振興課長 兼地域移行課長	杉山麻里
	図書館活動課長	高橋清隆		
	総合支所部長	馬場敬士	日生総合支所長	横山修一
審 査 記 録	次のとおり			

午前9時30分 開会

○森本委員長 おはようございます。

ただいまの出席は7名です。定足数に達しておりますので、今から総務産業委員会を開会いたします。

本日は報告事項をお受けして、その後所管事務調査に移っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

報告事項が終わられて、あと所管事務調査に関係ない説明員の方は順次退席していただいて結構ですので、お願い申し上げます。

***** 報告事項 *****

それでは、まず初めに報告事項から行いたいと思います。

まず最初、ふれあいの館かぜまちの指定管理について。

○横山日生総合支所長 日生総合支所より、ふれあいの館かぜまちの指定管理期間の誤りについて御報告申し上げます。

9月の総務産業委員会において石原委員より、かぜまちの指定管理期間が本年3月をもって終了しているのではないかと御指摘をいただきました。そこで確認したところ、委員のおっしゃるとおり3月で終了しておりました。かぜまちの指定管理につきましては、令和2年12月議会において議決をいただき令和3年4月1日から令和6年3月31日までの基本協定を締結いたしました。また、これを基に、各年度ごとに指定管理料の設定などの年度間協定を締結してきたところでございます。本年度におきましても、前年度までの指定管理者と年度間協定を締結し施設の管理をしていただいております。

今回の誤りにつきましては、3年間の指定管理期間を5年間と誤った認識を持っていたことにより発生したものです。これは職員の人的ミスであり、今後はこのようなことを絶対に起こさないよう確認等十分気をつけていきたいと考えております。誠に申し訳ありませんでした。

なお、4月以降、議決をいただけていない状況での施設管理が続いております。つきましては、現在12月議会での遡及適用の議案提出について対応、検討をしております。議案提出の際には、御審議のほど何とぞよろしくお願い申し上げます。

日生総合支所からの報告は以上であります。今後気をつけてまいりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

○森本委員長 報告が終わりましたが、この件に関して質疑のある方。

○石原委員 指定管理の期間切れておったということですけど、今の御説明で12月の定例会をもって指定管理の指定の議案をお出しされるということで、確認ですけど。

○横山日生総合支所長 遡及適用ができるかどうかとも検討して、もしその場合にはできるのであれば提出する予定でございます。

○石原委員 公募、非公募でいろいろ取扱い違うかも分かんですけど、一応原則としては公募

での指定管理であれば5年間、それから非公募で指定管理であれば3年間、それ規則で決まっとんかよう分かんですけども、実情としてはそういう適用があって、だけど今回についてはちょっと手続のところが不十分な面があってということで、これまでこういったケースは備前市政において施設管理において、初めてのケースになるんですか。

○馬場総合支所部長 このたびは御迷惑おかけして申し訳ございません。このようなケースは今回が初めてであると認識しております。

○森本委員長 ほかの方でよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、次の報告事項に移らせていただきます。

次は、海外巡回展について。

○梶藤市長公室参与 海外巡回による企画展のことについて御説明させていただきます。

本日お配りしております資料によって説明させていただきます。

この資料ですが、11月までに実施したもの、また予定しているものについて記載しております。

まず最初に、5月18日から6月17日までフランスのヴァロリス市の国立ピカソ美術館建物内のマニエリ陶芸美術館におきまして備前焼45作品を展示しております。来場者は2,062人にであります。

9月24日から29日、フランスのコルシカ島アジャクシオ市のオランディニーニという施設で備前焼82作品、虫明焼3作品を展示させていただいております。来場者は約800人。

10月11日から11月9日までドイツのフレッヒェンのKERAMIION陶磁器博物館で備前焼82作品、虫明焼3作品を展示させていただいております。人数はまだ把握できておりません。

11月19日、フランスのパリのエッフェル塔で茶会ということで備前焼24作品、虫明焼1作品を展示することとしております。

11月23、24日、モナコ公国の日本庭園におきまして備前焼82作品、虫明焼3作品の展示を予定しております。

○森本委員長 この件に関して質疑のある方。

○尾川委員 いろんな国でいろいろやっておられるけど、この展示会に作家が同行しとるかどうかということと、作家の反応はどうか、もう一つは、虫明焼と備前焼の作品点数にかなりの差がある、この辺のバランス、どういうふうになっとんか教えてもらえたらと思う。

○梶藤市長公室参与 まず、作家の同行についてお答えいたします。

作家の同行については、ヴァロリスでの展示はお一人、コルシカ島の展示は2人、ドイツは行っておりません。パリは、今2人予定しております。モナコは、まだ調整中でございます。

あと作家の反応ですが、作家自身の反応というよりも行ったときにあちらの会場におきまして

はやっぱり作家がいることによって説明が非常にうまくできるということで、非常に興味を持って展示を見ていただけている状況があります。作家につきましても、いろいろ刺激がありますので、そちらが今後の作陶作業につながっていくというような話も伺っております。

あと虫明焼とのバランスですが、虫明焼の作家は2人でございます。作品も1人3作品までという形での募集になっておりますので、作品数が3作品となっております。

○尾川委員 作家は、どういう形で人選されてきとんですか。その作家の方を、備前焼についてどういう基準で、具体的に誰が行ったか、また後日でいいですから教えてください。

○梶藤市長公室参与 作品については、公募という形でフルにオープンで募集して、募集してくださった作品は全てお持ちしているという状況でございます。

海外に行った人の人選につきましては、一応作品を提供してくださった作家皆さんに聞き取りを行って、例えばパスポートを持っているかとか、行くことになったら行く意思はありますかとかを確認させてもらって、その後会場ごとである程度確認を取って行ける人を確認して現地へお願いしているという状況でございます。

○尾川委員 要するに偏りが無いかということと、一番が陶友会を通してやっとなか、それとも市が直接手出しとなかを明確にして、それと同じ人が2度、3度行っとなか、1度行った人は外すのか、その辺のことを具体的にどういう基準でやっとなかれるかを詳しく、公平性というのはやっぱり、市がやることです。公共の税金を取ってやりようるわけじゃから、公平性は一番に考えてもらって特定の作家だけ育成することはないようにしてもらいたいというのが質問の趣旨です。

○梶藤市長公室参与 特定の作家が何度も行ったということではなく、基本的に1度行かれた方は候補から外して次を選んでいるという状況でございます。陶友会を通してとかという話もありますが、こちら市の事業として行っておりますので基本的に陶友会を必ず通してとかという形での募集等は行っていないのが実態でございます。

○尾川委員 新聞には出とるから、一遍見たことある。山陽新聞か忘れたけど、こっちには報告はねえ、新聞には報告があるとちょっと矛盾しとんじゃねえかと、その辺をやっぱり行ってきてどうじゃったとかというのを、その費用はどうか知らんよ、市が出しとなか、それとも自費で行っとなか、自費で行ったとったらどうこう言うことはねえけど、その辺の問題絡んで言ようるわけじゃけど。

○梶藤市長公室参与 新聞等で作家の報告会があったものにつきましては、ミラノのフォーリサローネに参加した作家の報告会があったということで、フォーリサローネは議会にも報告していると思います。

○森本委員長 名簿の提出大丈夫ですか。

○梶藤市長公室参与 作家のお名前につきましては、もうここで言っているんですか。中本研之さんがヴァロリス、比江島舞さんと野智士さんがコルシカ島、この3人です。あとフランスのエ

ツffel塔で予定しているのが藤原和さんと木村桃山さんです。

○森本委員長 ペーパーで出してください。よろしくお願いします。

○松本委員 行って間近だから分からないかもしれませんが、広く言えば費用対効果ですけど、これで購入というか、売買の契約ができたとかがあるかどうか、それから将来的にこういうことの成果が具体的に市として把握できるんかどうか、物の売買だから個人のことになるかも分かりませんが、そういうことができるような体制にあるんかどうか、教えてほしいです。

○梶藤市長公室参与 今回までの展示における成果につきましては、基本的にこの展示自体が物を売っているという展示ではないというのが一つあるんですが、今後の展開として今ギャラリーの方が興味を示して、今後この展示を見てギャラリーで展示するというようなこともありますので、そういうものが成果と言えば成果と言えるのではないかと思います。うちとしても、今後ギャラリーとかに興味を持っていただいて、作品を海外で売っていただくというのが一つの成果になってくるかなと思います。今後におきましても、今と同じような形での成果と、あとインバウンド的なものについては出てくるかなと思うんですけど、具体的に市でこの展示会が成果にダイレクトにつながっているとは言い切れないと思うんですけど、今後インバウンド等の観光客等が増えること成果になるのかなと思っております。

○石原委員 作家につきましては、改めてペーパーでということですがけれども、直前に迫るとエッffel塔茶会、1日だけなのかという認識でおりますけれども、このイベントには作家がお二方ですがけれども、職員は何名ほど行かれるんでしょうか。

○梶藤市長公室参与 備前市の職員の派遣はないという形でのイベントを進めております。パリにおける職員での対応で進めております。

○石原委員 それから11月、その次にも直後にモナコでイベントがあるようですけれども、市長もしくは副市長などが行かれる御予定等はあるんでしょうか。

○梶藤市長公室参与 今のところ市長、副市長は行かれる予定にはなっておりません。

○石原委員 過去のイベントも含め、来場者も出ておりますけれども、それぞれのイベントの展覧会等々の何か様子が分かるような、検索をしたらそれぞれ出てくるかも分からんですけども、何かこう見てぱっとあつ、こういうイベントだというのが分かるような資料なり何なりあればお出しをいただけたら参考になると思うけれども、いかがでしょう。

○梶藤市長公室参与 写真等を提出するというイメージでよろしいでしょうか。

○石原委員 何か様子が見て幾らかでも分かるような形で、その内容についてはお任せいたします。

○梶藤市長公室参与 先ほどの作家のお名前と併せて、提出のほう準備させてもらいます。

○石原委員 エッffel塔のお茶会については1日だけの開催で、スペースの問題等もあるんでしょうけれども、作品のうち選び抜かれた25作品がエッffel塔でということですが、勝手なイメージですけど、これお茶会ですので数ある作品の中からお茶に関するような器を選ん

でお持ちするイメージでよろしいでしょうか。

○梶藤市長公室参与 委員おっしゃられるとおり、基本的にお茶わんをメインで飾るということで作品の選定をさせていただいております。

○石原委員 これまでも度々ですけれども、瀬戸内市さんの虫明焼も含んでということで共同の事業なのかな、これまでも地域商社の設立であったり、文化芸術振興財団であったり、瀬戸内市さんとどういう連携が図られとんかなというところもよく分からんですけども、備前市と瀬戸内市のこういったイベントに対してのバランスというか、瀬戸内市さんも必要とあれば都度職員も実際に行かれたりという事業でしょうか。

○梶藤市長公室参与 今回載せております部分につきましては、先ほど尾川委員からもバランスがみたいなお話もありました。基本的に、備前焼が今までの展示にはかなり多くを占めております。今後瀬戸内の刀とかも展示を考えておりますので、その部分につきましては瀬戸内市の職員の関わりも大きくなってくるかなという形で進めさせていただいております。

○森本委員長 ほかの方でございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、次の報告に移らせていただきます。

図書館建設の進捗状況について。

○祇園プロジェクト推進課長 備前市図書館建設の工事の進捗について説明させていただきます。

先日は9月の議会で契約の締結の議案承認いただきまして、ありがとうございました。それにより、9月30日に工事の契約ができております。そして、10月になりまして10月30日の夜に地元説明会を市民センターで開催しております。

次に、翌日の31日の午前中に建設現場で安全祈願祭を執り行いました。市議会議員の方にも御出席いただき、ありがとうございました。建設業者等含め45人ほどが出席しております。そして、11月7日午前中に暴力団等排除協議会を市役所で開催しました。そして、現在ですが、今日から仮囲い等仮設工事に着手をしております。現在現場に工事看板、地縄張り、バリケード等が設置できている状態です。また、工事の進捗の様子が変わりましたら、委員会でも報告させていただきたいと思います。

○森本委員長 報告が終わりましたが、この件に関して質疑のある方、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、次の報告に移らせていただきます。

職員の名札の改正について。

○青木総務課長 職員の名札の改正についてでありますけれども、議会での一般質問で御提案いただきました職員の名札の表記についてであります。

他市の状況も参考に11月1日から別紙でお示しさせてもらっております資料のとおり顔写真

入り、フルネームであったものから課名と名字のみの表記に改正を行っておりますので、ちょっと遅くなりましたけども御報告させていただきます。

○森本委員長 この件に関して質疑のある方、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、次の報告に移らせていただきます。

次が人事院勧告に伴う条例改正案及び補正予算案の提出について。

○青木総務課長 人事院勧告が出ておりまして、例年そちらを準拠して条例改正等を行っております。今のところ12月の定例会に予算と議案の提出予定ですので、また御審議のほうよろしく願いいたします。

○森本委員長 次の議会に関わることですけども、何か御質問ある方、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、次の報告事項に移らせていただきます。

西片上駅の改修状況について。

○井上都市計画課長 都市計画課より西片上駅改修事業の進捗状況について御報告させていただきます。

先月10月22日に、本駅舎の改修に関わる施工区分及び工事期間中の仮駅舎の配置等についてJR岡山支社にて設計協議を行いました。今後、本駅舎の改修範囲及び仕様等について内容を精査しJR委託工事、市工事の施工区分を確定させる予定としています。協議が完了しましたら、できるだけ早く本駅舎の工事に着手できるよう努めてまいります。

○尾川委員 協議が終わって具体的に動くのは、全然予想立っていないということですか。

○井上都市計画課長 9月に予算をいただきました仮駅舎の執行について、年内に設計協議を完了させまして、年度内にできましたら仮駅舎の工事に着手したいと思っております。

○尾川委員 年度内に着手するということは、3月までにいつになるかまだ分かんということ、そういう解釈したらええわけ。

○井上都市計画課長 現在の回答としましては協議中ではありますが、仮駅舎につきましては設計協議が完了しましたら工事内容的には年内には仮駅舎はできるのでないかという見込みでございます。

○尾川委員 中身はえんじゃけど、いつから着手するのか聞きたい、12月とか3月とか年度中という中途半端な表現じゃなしに具体的に11月、12月、1月とかという話をお聞きしたい。

○井上都市計画課長 年内には設計協議を完了させまして、年が明けた早い時期に仮駅舎の工事の発注準備を進めてまいりたいと思います。

○森本委員長 ほかの方でよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次、旧アルファビゼン建設工事の進捗状況について。

○祇園プロジェクト推進課長 旧アルファビゼンの改修工事の進捗について御報告いたします。

第2期工事のほう7月に議会で議決をいただきまして、現在契約をして工事を進めております。10月2日に旧アルファビゼンの現地で安全祈願祭を午前中に執り行いました。議員と建設関係者に出席いただきまして、約43人の出席でした。10月30日夜に地元説明会を市民センターで開催しております。現在は仮囲い等につきましては1期工事から引き継いだものを利用し、作業は足場の組立て、仮設の電気の引込み等の作業を行っております。そして、先日の議会で補正予算をいただきましたことによりまして、変更契約の議案提出を計画させてもらっております。皆さんの手元にも議案書が届いておるかと思いますが、13日に臨時会をお願いしておりますので、またその際には御審議よろしくをお願いいたします。

○森本委員長 報告が終わりました。

質疑のある方、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、次に進ませていただきます。

河川のしゅんせつ及びしゅんせつ残土処分場の建設状況について。

○藤森建設課長 建設課からは、河川のしゅんせつ及びしゅんせつ残土処分場の建設状況について御説明させていただきます。

三石の残土処分場の建設状況につきましては、工事着手から伐採、除根、測量、現地調査及び掘削するところまでの工事用道路のコンクリート舗装につきまして5月下旬まで実施し、5月下旬からは調整池の堰堤を建設する箇所の掘削及びのり面整形を施工しておりまして、8月中旬に完成しております。また、8月中旬からは堰堤の工事にかかるための作業ヤードの設置や堰堤までの工事用道路のコンクリート舗装を施工しており、10月末で完了しております。引き続き11月からは、今度は堰堤のコンクリート打設を順次施工する予定としております。

なお、河川のしゅんせつ土につきましては、しゅんせつ残土処分場が完成後に順次受け入れる予定として計画しております。

河川のしゅんせつ及びしゅんせつ残土処分場の建設状況については以上でございます。

○尾川委員 総括的に説明があったけど、結局計画とすりやどういう状況ですか。計画どおり、大体遅れとると思うんですけど、完成がいつになるんか、そのあたりについて進捗状況というてるあるけど、どの程度遅れて最終的な完成はいつかを一番聞きたい。

○藤森建設課長 堰堤を建設する箇所の掘削及びのり面形成の施工を行っている状況でございますが、当然岩盤が想定以上に固くて工程に遅れが生じないよう発破による岩の掘削、破壊等を行いました。若干遅れている状況でございます。現在、工期末である令和7年3月31日に完了できるよう順次調整し、進捗率の向上に努めておる状況でございます。現在の進捗状況は、約40%程度でございます。

○尾川委員 40%で令和7年3月末完了、そう言われるから信用せにやいけんですけど、実際

問題として、結局これができんと河川の堆積残土、土を処分できんということになって、いつまでもたっても計画だけで、県のほうもできたら本当に対応してもらえるんですか。本当に令和7年3月末完了できるかどうかということと、県のほうとの話は並行してやりようと思うけど、どういう状況ですか。その辺をお聞きしたい。

○藤森建設課長 令和7年3月31日までに工事が完了できるように調整し進捗の向上に努めてまいります。また、県につきましては、このあたりの話をさせていただいておりまして順次河川のしゅんせつ等進めていただけるようお願いをしている状況でございます。

○松本委員 令和6年度以降の完成後ですけど、しゅんせつ残土は各種いろいろあると思うんですけど、残土処理の計画というか。私たち日生なんか、あそこ掘ったらええな、何とかしてほしいと思うけど、要はこれが完成した後という話なるわけです。具体的にそういう願望としてはあるけど、計画書なんかは出してないですけど、そういうことが各地から集まっていますか、どうでしょうか。

○藤森建設課長 今のところ具体的にはお伺いしておりません。

○森本委員長 ほかの方でよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、次に進ませていただきます。

浦伊部地区の道路整備の進捗状況について。

○藤森建設課長 続きまして、建設課からは浦伊部地区の道路整備の進捗状況について御説明させていただきます。

市道浦伊部線の道路整備につきましては、1期工事としまして県道磯上備前線から市道伊部130号線までの施工延長315メートルの道路新設工事を10月31日に完了し、11月7日に竣工検査を実施しております。

また、2期工事としまして、市道伊部130号から伊坂川までの施工延長60メートルの道路新設工事及び伊坂川へ高架するための橋梁の下部工について発注を終え、10月下旬から現場着手し12月から下部工のくい打ちを施工する予定としております。令和7年3月31日の完了に向け、順次施工しております。

なお、地元の地区につきましては、区会とも相談しながら回覧にて周知しておる状況でございます。

○森本委員長 報告終わりましたが、質疑のある方。

○石原委員 部署が変わるんか分からんですけど、今年度たしか浦伊部地区の基本構想作成業務委託料、当初予算でたしか1,000万円計上され可決されたと思うけども、基本構想作成業務の進捗はいかがでしょうか。

○井上都市計画課長 そちらの予算の執行につきましては、都市計画課で行っております。業務委託につきましては、既に発注済みの状態となっております。

○石原委員 その作成業務は今年度中に終わって、構想ができるという流れでよろしいでしょうか。

○井上都市計画課長 内容的には、委員御指摘のとおりだと思います。

○尾川委員 マスコミでも報道があつて球場ができると聞かされる、そのあたり詳しいことを教えてほしい。

○河井産業建設部長 まだ確定しておる案件ではございません。現在今井上課長が申し上げましたとおり、基本構想を発注している段階です。用途地域であつたり、都市計画道路の見直しであつたりも併せて検討しながら、どういった可能性があるのかというのを計画していくという計画になっています。それがある程度見えた段階で新年度以降に正式な、例えば開発をするのであれば開発の手続が必要になってまいりますので、一旦は基本的な大まかな構想を立てていくというところになっておりますので、現在確定しとる案件は今のところまだないという状態でございます。

○尾川委員 計画をつくるというても計画の素案はある程度こういうものをつくりてえというものを市のほうから示さなきゃいけないのじゃねん。その基本構想の中にはある程度アウトラインというものはこれとこういうものをするというものを示しとると思う。基本構想の指示を出すのは備前市と思う。設計するのは設計会社かもしれん。その辺のことについて、ちょっと踏み込んだ形の答弁してもらいたい。

○河井産業建設部長 構想案とすれば、公園まで含めた構想案を持っていますので、それから商業施設であつたり、不足するグラウンドまで含んでおりますので。

ただ、用地が全て買い切れているような状態ではございません、現状。ですから、用地交渉も今並行して動いているわけですが、どうしてもその用地が買収できなければ思っているような大きさが取れないということになりますと当初計画していたものでもできないということになってまいりますので、規模感も併せて現在調整しているところでございます。あくまでも基本構想という形になりますので、実際にそこへその規模の施設が置けるかどうかというのは今後の状況次第にも関わってまいりますので、軽々にこれがもうできますと今現時点では申し上げられない状況でございます。

○尾川委員 こういう形でこういうものを出したいという市の意見、市の考え方をやっぱり伝えていくんじゃねえかなと思う。それをやはりある程度示すべき、その設計会社にある程度ノウハウというか、こういうものを造りたいと指示しとんじゃから、そのくらいのものは出してもえんじゃねえかという、きちっとした絵が出てこんと図面が出んと話がでкинというより、それが土地の問題とか道の問題、土地の買収の問題もどんなか皆一応了解取つとるから買収できる、ただ時期とか予算の問題があつて、全部そのとおりいかんと思うけど、ある程度考え方はこういう方向ですというものは示すべきじゃねえかなと思う。その辺はどのようにお考え、その辺でやっぱり市民も動揺するというか、示すべきじゃねえかと思うけど、部長の考えを教えてください。

○河井産業建設部長 基本構想、今発注しているものがある程度できた段階で、地元にもこういったのを計画したいということはお話ししていかないといけないと思っておりますけれども、いかんせん、先ほど申し上げましたとおり例えば真ん中あたりが買収できていない状態であれば人様の土地の上にもう公共が絵を描き切ってしまうのもなかなか難しいところがございますので、買収できるタイミングと併せながら規模感もちょっと考えていかないといけないという状況であるという今現状がそういう状況で、完全に全て買い切れていれば思い切って絵が描けていけるわけですが、そういう状況もございますので、そういったところは地権者の方にもちょっと配慮しながら動いていかないといけないというふうには考えているところでございます。

○尾川委員 そういう構想をやっぱりそれなりのプロジェクトを組んで専門家に任せてある程度市としてのスタンスをまとめ上げて、構想計画は専門家につくってもらうのが物事の順番という感じがするけど、物事の進め方は一工夫というか、考えてやってもらう、地権者の問題があるかもしれないけど、備前市の将来についてこうあるべきというものがある程度どういう形で、どこで意見を聞いてどういうふうに市は持っていこうとするんかというのを今さら言うなと言うけど、そういうもんがあつてきちっとしていくべきと思うけど。

○河井産業建設部長 今委員から、将来的なことも考えてという御意見もいただきました。実際に整備をするに当たって、例えば莫大な費用がかかると考えております。ですから、私ども今考えておるのは、片上地区でやっているような立地適正化計画を新年度策定した上で財源を確保しながら動かないといけないとは考えております。幾らやるやると言いましても、財源がついてこないと何もできませんので。

例えば開発を行って売買するだけであれば開発に要した費用を後から売り払って収入を取ればいいわけですが、そういう部分ばかりではないと考えておりますので、そういったものに必要な財源も確保しなければ、備前市にそれだけの力があるかということにもなってまいりますので、併せて新年度についてはそういったのも今考えている、担当部局としてはそういった計画も立てていかないと財源がついていかないとということも併せて検討している段階でございますので、そういった点を御理解いただけたらありがたいです。

○尾川委員 あんたら知らんかもしれないけど、近くの笹尾山を大開発するという計画があつて、久々井のほうまで道つけてというのあつて。それは首長が替わったりすりゃやめるだろうし、財源がなかったらやめるかもしれないけど、その辺の兼ね合いは分かるけど、結構今は遅れてと言うけどぼちぼち進んでいきようという面もあるんで、よく詰めてやってもらえて計画倒れになつて笹尾山のことなんかいまだにたまに言われることがある、計画書をもろうたり、そんなことなんで全部が全部できるというのは私も思わんけど、もともとあそこの開発があつたわけだけけど、そんな感じに少し情報を隠せ、クローズにせいと言うんじゃねえけど、何らかの形でそういうふうな質問がありや答えられるようにだけは対応してほしい。

○河井産業建設部長 現在先ほど建設課長も説明しましたとおり、道はもうつけて動きようりま

す。土地も大分7割ぐらいいは買収が伊坂、新しい新道から北です、北側手については7割近くの用地が買えているという状況になってきていますので、実際このまま先ほど委員がおっしゃられたように笹尾山の計画は私もちょっと承知しておりませんが、そういったような形で塩漬けになるということだけは絶対にやってはいけないと考えておりますので、慎重に計画は立てていきたいと考えております。

○森本委員長 ほかの方でよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○藤森建設課長 報告事項に上がっていないですけど、1件建設課から報告させていただけたらと思います。

今回台風10号の影響により、8月27日の豪雨によって吉永町において災害が発生しております。それに対応するための補正予算を計上させていただいておりますので、御審議をよろしくお願いいたします。

○森本委員長 この件に関してよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、報告事項を終わらせていただきます。

続きまして、閉会中の継続調査事件に関する調査研究のほうに移ります。

***** 移住・定住についての調査研究 *****

まず1点目に、移住・定住についての調査研究、人口動向、定住促進についての調査研究に入りたいと思います。

資料が出ているので、まずは資料の説明を先にさせていただきたいと思います。

○行正企画課長 企画課から資料を提出させていただいております。

9月の定例会で一般質問の際に人口の動態ということで提出しました資料を基にグラフ化したものでございます。

まず、一番上の表ですけども、月末の人口を毎月グラフ化したもので平成31年4月が3万4,437人、それから最後の令和6年8月が3万938人となっております。

続きまして、中段の月別社会増減ですけども、月別に男女別の転入転出の社会動態の増減をグラフ化したものです。ゼロから上のは転入の男性、女性の数、それからゼロから下、マイナスは転出の数を示しております。

続きまして、一番下のグラフで社会増減の積算値ということで、前月との増減を平成31年4月を基準に毎月その増減を積み上げていったものがこの表になります。特に令和元年とか令和2年のあたりは冬です、11月、12月、1月、2月の増加が顕著かなと思っております。

○森本委員長 この件は尾川委員と内田委員からの要望で上がっておりますので、よろしくお願い致します。

○内田委員 大変いい資料をもらっておるけれど、転出する主な理由ということで特に気になる

ところが真ん中です。①の就職、転職のためであるとか、これは令和5年においては44.4、そして6番の子供の就学や子育て環境のためで11.1、⑦の持家の購入11.1という結果が出ておるけれど、こういう結果に基づいて市としてはどういうことを対応していったか、あるいはその対応についてどういう結果があったかということは、部署が変わってくるかも分かりませんが、特に真ん中の表を見る限りどんなことをしたかということがあれば教えてください。

○行正企画課長 内田委員の言われるとおり、転出する理由については毎年度違っているんですけども、就職、転職が最も多いというのは毎年度同じという状況が続いております。このことから就職を機に若い世代を中心として市外に転出していて、ひいては少子化にも連動していると思われる。

これ一因ですけども、事務系だと望むような働く場というのが都市部に比べて備前市内に少ないことがその一つの理由と考えておりまして、企業団地の造成とか遊休地、空き施設などを活用した企業誘致を現在促進しているところで、働く場の確保に努めているところでございます。

また、不満の理由ですけども、毎年度買物などの日常の便、交通の便、職場、学校との距離の3点が毎年度の上位を占めている状況でございます。利便性の高い公共交通の構築、あとJRとか国、県に対する要望を継続するとともに、市内の働く場を確保するなど、これらの対策を通じまして住み続けたいと思う魅力的な地域づくりが必要ではないかと考えております。

○尾川委員 担当者がどんどん替わっていくからやむを得んかもしれませんが、まず1点目、データ分析の継続性を一遍前に出てきたデータと最近のデータと見方が悪いかも分かんですけど、どっちが見やすさがあるかどうか、少しは前の分析したのを参考にされとんですか、

○行正企画課長 前のものも参考にしております。

○尾川委員 見方じゃろうけど、私らちょっと途切れたような気がして、せっかくこういう貴重な時間を取って分析していただきよんですから、ある程度継続とか、ある程度何の理由で見直してきたかとかということを少し考えてもらいたいと。

質問は、転出者のアンケート、これ非常に大事なし、これも国からか県からかのデータ把握せいというふうな、これに地域性、どこへ変わったとかというのも国、県は把握しとると思う、当然基礎自治体はそのデータを把握せざるを得んと思う、そのあたりの分析についてはどういうふうにお考えなんか。

○行正企画課長 転出先の市町村で一番多いのは県内ですと岡山市、続いて瀬戸内市、それから赤磐市とかになっております。

○尾川委員 その辺をやはり見たってこっちもどうしようもねえと言うちゃあれじゃけど、せいぜい住宅の新築住宅の補助金をやめてしもうたりするのが、どこまでそういう施策との連携というのがなっとんかという、ただデータ把握するだけじゃなしに施策とアパートとか、あの辺の連携をもう少し、そりゃ担当があるから担当のほうかもしれないですけど、連携して住宅、市長は前も言うたんですけど、新築住宅についてはもう瀬戸内市はねえから赤磐市はねえから備前市やめ

たと答弁があったと思う。だけど、やっぱりそれが差別化で、備前市は岡山から遠いから建築が少ねえ、何で家が建たんのかということ、前は補助金を10万円か20万円か少なくて、思い切って100万円にして土地の購入も50万円出して、そういう奨励策したにもかかわらず減って来んからやめてしまうんじゃないし、あんたの担当と違うんか知らんよ、定住策考えるの。だけど、やっぱりそれはこういう基礎データに基づいて、どういう動向であるからどういう対策を立てていくための基礎データと思うとんです。だから、それを定期的に把握してチェックして転出する理由あるいはこっちに来ん、それから年齢的な女性の数、子供の数がもう減ってしもうて学校、下手しようたら学校統合ばあせにやおえんようになる。だから、人口問題というのは難しいですけど、新築住宅でも市長はやめと言うたんか知らんけど、やっぱりこうこうこういう理由で要りますよとかということ、あんたらが説得してくれにやいけんと思う。そのためのデータを作ってくださいよという意味で、一般質問でそのくらいのことしか言えんし、ただそういう答弁でまかり通るとるわけ。逆に100万円つけることによって備前市には家を建ててくれるんじゃないかという期待感だけど、確かに減ってきて、どうしたらええかというのを担当者とすりゃその数字、人の数を把握しようとするところはその辺を連携して、ただ国が調査、調査費用をもらうとるとかというだけじゃなしに、そういうことに生かしてもらいてえというのが願いです。

それと、これを見てどういうふうに、この一覧表これ転出もう本当大変なデータで、どういうふうに見たらええわけ。このA3の用紙は担当者とすりゃどういう読み方しようのか教えてほしい。何を読みようかということ、実際施策に生かしていこうとしんかということをお聞きしたい。

○榮企画財政部長 先ほど尾川委員から御指摘いただいた点につきまして、まず人口減対策、具体的などころでは新築住宅の補助金についてですけれども、これまで打ってきたそういった施策についてははっきりとした大きな人口減を食い止める、あるいは人口増につながるような効果が見られていないというのが今日お配りした社会増減の積算値と書いてある一番下のものから見ていただけるのではないかと思います。

これにつきまして若干説明をさせていただきますと、令和に入ってから現在までの累積です、社会増減の累積値を行正課長が説明したとおり月末の累積値をグラフにしてみたものでございます。内容につきましては、データは尾川委員に9月の議会にお示ししたものが根拠になっております。これで何が言いたいかというところですが、その上の月別の社会増減のところと関連はあるんですけども、年度末です、特に各年度3月のところが増加、転入も転出も男女多いという状況が見えると思います。

下のグラフと比べていただきますと、女性のほう比べますと、同じ3月、4月あたりを見ていただきますと、右に下がるカーブが急激になっているのが分かると思います。女性については、転出が転入を大きく上回っている、この時期と申しますとやはり就職、進学、こういったところで女性は大きくこの時期が下がっていると考えております。

それから、男性についてですけど、減少傾向にはあるんですが、特に令和元年の冬あたり、それから最近です、令和元年の冬は特に社会増になっている時期がございます。これは大きな要因として、外国人の男性の転入が非常に増えている、外国人だけを見ても、コロナの直前ですけども令和2年1月、511人という値になっておりまして、その前令和元年9月は241人しかいなかったんですけど、令和2年1月は倍増しているといったような状況になっています。

それから、コロナ禍の期間ですが、男性のほうも令和4年2月あたりは329人、330人ぐらいまで減りまして、コロナが明けた現在令和6年8月、一番右ですが541人まで外国人の男性は復活して人口が戻っております。比べまして女性については、210人から230人ぐらいまでの間で大体安定して人口が変化しておりません。このあたり男性と女性の人口の推移という差が、この外国人の転入出によって左右されているというあたりを分析しております。

○内田委員 私も一番気になっておったのは令和6年度から新築住宅の助成金がなくなったということは、特に事業所からすれば非常に備前は魅力的であったという、よその地区に比べて土地がやっぱり瀬戸内市に比べりゃ備前はちょっと高いということで、その土地に対する助成金もあれば瀬戸内市に並べるという、そして特に若い夫婦にとっては100万円というのは大きな魅力であったんで、それがなくなったことによって若干よそへ出ていくのがあるかなということも聞いておりますんで、一部の声かも分かりませんが、ぜひ担当者とすればそれは力強く市長にお願いして、100万円の助成金あるいは50万円の助成金を復活してもらうようにお願いしたいと思っておりますけど、そのあたりどんなでしょうか。

○榮企画財政部長 新築住宅の補助金につきましてですけども、今年度一旦休止をしておりますけれども、今年度の人口の動向とか、市民からの御要望とかも併せまして、やはり根拠に基づいた政策立案、形成が必要だと思いますので、データのほうを注視して来年度に向けてどうするかという検討してまいりたいと考えております。

○内田委員 それが不満だった理由があります。交通の便、職場、学校云々、それで私も事業所に聞いたところ、一番いいのは備前市で魅力があるところは伊部というふうに実はその業者からは聞いとるんです。伊部がいいのはやはり交通の便がよい、学校も近い、買物も便利、さらに小児科があるということも言われていました。それから、警察が近いんでやっぱり治安がいいということで、備前市であれば伊部であれば団地ができればすぐ売れるんだというようなことは聞いております。ほかの地区については若干伊部に劣るところがあるところも結構あるんで、そのためには私は特に伊里に住宅を造ってほしいということで要望しておりますんで、そういったこともさらに進めてもらいたいと思っておりますけど、どんなでしょうか。部署が違うかも分かんけど。

○榮企画財政部長 伊部、それからその周辺につきましても人口の集積というか、今後将来にわたって人口が増加するであろう、そういったインフラも集積しておる地域でございますので、そういう部分についてはこれから人口の低減、減少を食い止めて、できれば増加に持っていきたい

というふうに都市計画のほうもそういった計画を定めておりますので、それに基づいて政策形成やってまいりたいと考えております。

○尾川委員 私ら見とって西鶴山小学校の動きというのはまた複式があったり減少しとんですけど、香登あたりにマークするとか、もう少し学校の生徒数とか、人口の動向、地区別の動向とかをもっと把握して、そこを行正企画課長が取り仕切りよんか、それとも都市計画課のほうがりよんか、空き家のほうがやりよんか、どうも誰がメインでやっとなかというのが、誰かが中心にならんといけん、その辺の旗振りは榮部長、その辺決めて本気でしてくりょうと思うんじゃ、いろんなイベントというか、今事業をやっとるのはその一環と理解しとんじゃけど、結果的にあんまり効果、そう簡単じゃねんじゃけど、そのあたり市役所としてはどういう部署が誰がメインになってどういうふうにしていきようかという、そういう組織立った動きをしてもらいたいんですけど、その辺はどんなですか。

○榮企画財政部長 部署横断というか、そういった協議につきましてですが、今年度市の最上位計画である総合計画のほうの見直しの作業にこれから入ってまいります。その中で、もうここではいやが応でも各部長、担当課長、そういったところと計画のすり合わせをやっていかなければなりません。もちろん財政面のことも考慮しながら、今後次の4年間の計画にはなりますけれども、そういったところでの話合いを持ちますので、そういったところで各地区ごとの現在の動向とか、そういったところにももちろん配慮しながら計画策定を進めてまいりたいと考えております。

○尾川委員 ぜひ榮部長が中心になって取組をしてもらって、親方の意見だけじゃなしにやはり取りまとめてどういう方向で行くかというのを、例えば浦伊部地区の開発が人口増になるかどうかというふうな、要するに一番言いてえのは誰かが中心になって総合計画もえんじゃけど、縦割りじゃなしに横断的な考え方で取りまとめていく、それは簡単じゃねえと思う、国が動いてもできんのんだから、そんな時代じゃけど、今見ようたらもう備前なんか消滅可能性都市になつとるというのも、今年の4月も去年の4月でも言われてきとんじゃから、何らかの住宅対策、そりゃ100万円出したからというて効果はねえという見方もあるけど、ある程度継続性の問題もあつたり、とにかく誰かがきちとした責任を持ってまとめ役におつてまとめていくという方法をやってもらいたいけど、ぜひ取組についてお答え願いたい。

○榮企画財政部長 同じ答えになるかもしれませんが、やはり政策というのは根拠が必要だということで、事実と根拠に基づいて次の政策を打っていく、それからもちろん財政的な面も考慮しながら持続可能なそういった政策、財政構造を継続していくということが必要だと思いますので、そういったことに配慮しながら計画策定のほう進めてまいりたいと考えております。

○石原委員 もう備前市に限らず日本全国人口減少問題、大きな課題として横たわっておりますけれども、A3のグラフの月末人口上の上段の部分ですけれども、もう本当にほぼ直線のような形で減少が進んでおるけれども、この流れ、この動きはかつて総合戦略だったか、人口ビジョン

だったか、将来推計が示されておって、何かたしか4種類ぐらい動態が最悪の場合はとか功を奏して何らかの措置が改善されたりという場合は緩やか、急激なものあったと思うけど、この流れはほぼその推計の一番減少度合いの激しい動きぐらいで推移しとると見てよろしいですか。

○榮企画財政部長 委員おっしゃられたように、一番人口の動態のパターンとしては社人研という組織ありますけれども、そちらが過去の国勢調査の人口に基づいて推計をした人口とほぼ同じでございますので、政策的要素が入っているというところの人口推計とは異なるといいますか、自然の流れでこうなっているものとほぼ同じでございます。

○石原委員 よくよくその機関なんかが消滅可能性とか、強烈な表現で次々と自治体を指定して公表してというのがあるけど、おっしゃるようにその横ではしっかりした根拠をもって推計がなされとんじやなというの、こういうのを見て実感もする。それからさっきもどなたかおっしゃって、人口減少問題市長ももう一丁目一番地の大问题という捉えをされとる、常々おっしゃっておられますけれども、部署もあらゆる部署に産業系であったり住宅系であったり子育ての関する部署であったり多岐にわたっての人口減少問題にも長年取り組まれてはきておるけれどもこういう状況、さっきも言われた住宅政策、これまでも子育て支援策ももう全国どこを見ても引けを取らないような支援策をこししばらく続けてきとつてもこういう結果、先ほど申した初期の総合戦略では人口ビジョンでは2020年ぐらいまでに社会動態をプラ・マイ・ゼロにするのが目標であって、自然減はもう致し方ないけれども社会動態をあくまでそのレベルまでというような大目標があったけれども結局こういう状況、長年そういう施策を展開しながらも、予算が何ぼでもありゃえんですけれども、その検証が難しいですけれどもどうあるべきかという検証もしていただいて、9月の一般質問のどなたかの資料で各年度の推移があつて特にインパクトがあつたのがこれは社会動態のグラフですけど、自然増のほう出生数、子供さんが今年度4月から8月末まで5か月間のが出とって、それ見れば35人、備前市内で生まれる赤ちゃんが、9月もたしか7人ぐらい、ということは令和6年の半年間で40名少し上回るぐらい、だからこれ単純に倍にして年間の出生数にしてみると最悪100人を切るんじゃないかな。ついこの間まで180人、200人ぐらいでどっと減ってコロナもあつたりして減って令和5年度が百十何人ぐらいで、それもショッキングな数字でしたけれども、本年度はさらにそれを下回るようなことが、これ今までどおりのことをしとつてもいけんでしょうし、何をどう検証してどう組み立てていくかというのは非常に難しい問題とは思いますが、一つぜひ参考にしていただきたいのは以前も申したかもしれませぬけれども、人口減少を語るときにすぐに企業誘致、働く場をというようなお話になりがちですけれども、備前市内かつてよりありがたいことに製造業中心ですけれども働く場はそれなりに維持されてきていて、多くの若者もお仕事お勤めされていますけれども、そういう中で大手のれんが会社とか製造業の野球チームですけれども、20代ぐらいが中心の野球部の若者の皆さんに、お勤めは備前市内だけれども皆さんお住まいはどちらですかという問いに約1割ぐらい、2人ぐらいが備前市内在住、ほかは瀬戸内市、赤磐市、岡山市から通われとる、じゃからこ

ういうところにも転出していかれる方に理由を聞かれるのも一つありかもしれんですけども、今実際にお勤めの方、市外から勤められとる方が大勢おられますんで、そうところも一つのヒントとして事業所向けに調査をされてみるのも一つ有効な手段の一つではないかな。市役所の職員の方でも、お勤めはここだけども、市外へお住まいの職員も大勢おられるとお聞きしておりますけれども、そういうところにもヒントがあるかも分かんずし、身近にある材料フルにしっかり活用もいただいて、御提言させていただきたいと思う。これうかうかしようたら、ほんまにますます岡山市が小さな一極集中、岡山県におけるミニ一極集中みたいな岡山市でどんどんどんどんまださらにみたいな流れになることも懸念されますけれども、身近にあるあらゆる材料をフルに活用していただきたいと意見ですけれど、お伝えをさせていただきたいと思います。

○森本委員長 ほかによろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、次に移らせていただきます。

***** 文化スポーツ振興についての調査研究 *****

2つ目の文化スポーツ振興についての調査研究、アメリカの歴史・伝統・文化を体験するツアーについてです。これは石原委員と内田委員から出ていたと思うんです。

○内田委員 私は感想文がもらいたかったんですけど。

○杉山文化スポーツ振興課長 作文につきましては、現在の提出状況が約8割となっております。残り三十数名の方の作文の提出を待っているところですが、中には本当にいい感想文、作文書いていただいている方もいらっしゃるしまして、どういった形でお見せできるかというのを決めかねているところです。もしよろしければ、今日お一人分だけ読ませていただいてもよろしいでしょうか。

○森本委員長 それでは課長、お願いします。

○杉山文化スポーツ振興課長 では、読ませていただきます。

私は、今回のツアーで多くの貴重な体験をすることができました。文化・歴史という点で印象に残っているのは、全米日系人博物館です。そこでは、真珠湾攻撃の翌年、アメリカ本土にいる日本人、日系アメリカ人約12万人が2週間足らずで自分たちの住んでいる住居を追い出されマンザナー強制収容所へ送られたという事実を知りました。日本では戦争の話をよく聞くし、ナチスの行った Ауシュビッツ収容所の残酷な話は聞いたことはありましたが、まさか自分と同じ日本人、そして日系アメリカ人が強制収容所に収容された事実があったことを知り大変驚きました。資料館を巡ってマンザナー強制収容所での生活環境に混乱していたこと、収容所内でも施設設備を改善し学校や娯楽施設を造るなど様々な努力や工夫をしていたことを知りました。これらの事実は後世に語り継がなければならないし、二度と起こしてはいけないと強く感じました。

また、アメリカという国の文化、法律の差、貧富の差も実感しました。ヨーロッパ系の人、アフリカ系アメリカ人など、多種多様な人種の人たちを目にしました。交通ルールの違いにも驚き

ました。高速道路は基本無料で、速度の単位はマイル、カップルロードという2人以上は優先して通行できる道など、空港を出てバスに乗り換えただけで日本とは全く違うことを体験することができました。そして、日本ではあまり見かけないホームレスの人が、町中に多くいました。ガイドさんによると、最近ではコロナウイルスの影響、住宅価格の高騰もあって急増したそうです。アメリカは自由の国ですが、その自由にも責任が伴うことを痛感しました。アメリカにも、日本のように社会保障が充実して経済格差が少なくなっていってほしいとも思いました。

私たちは、カイトック工場とジャパン・ハウスに訪問しました。カイトック工場は、岡山に本社を持つデニムの製造企業で多くのアメリカの企業と提携して様々な種類のデニム、デニムパンツを生産しています。私の中でも驚いたのは、レーザー照射によってデニムの柄をつける装置です。実際に動かしてくれて、私たちを歓迎した文章をレーザーで書き、お土産として頂きました。先進的技術に驚きつつ、岡山に本社がある企業が世界的に活躍していることを知って誇りに思いました。また、ジャパン・ハウスでは、世界に向けて日本の伝統や技術を発信していく取組を知りました。このように、世界で活躍している企業を訪問しお話を伺うことができたのはとても貴重な体験でした。私も、グローバルな活動ができる人材になりたいと強く思うようになりました。

そして、何よりもこのツアーで印象に残ったことは、ドジャースタジアムでの野球観戦です。1日目の試合で、大谷選手が40本塁打、40盗塁を達成した歴史的瞬間を見ることができました。1回に相手チームからいきなりホームランを打たれてからかなり苦しい戦いが続いていましたが、3対3まで持ち越した9回裏のツーアウト満塁、打順が回ってきたのは大谷選手でした。観客の期待が高まる中、最初の打球はどんどん伸びて観客席まで飛んでいきました。実況の声、そして大歓声で会場が包まれ、周りの音が何も聞こえなくなるほどでした。まるでドラマのような展開のさよなら逆転ホームランでした。あの光景と大谷選手の姿を私は一生忘れないだろう、岡山の家族に動画を送ったらすごい熱量の返信が届きました。2日目の試合でも41号ホームランを打ち今も次々と記録を更新している大谷選手、日本に帰国してニュースを見るたびにロサンゼルスの本場、あのスタジアムで実際に試合を観戦したことが奇跡だったと思うくらい本当にすばらしい体験をすることができました。改めて今回のツアーに参加できたことに、とても感謝しています。

アメリカの伝統や歴史、文化についても知ることができました。学年の違う班の仲間とも交流を深めることができました。趣味のカメラ撮影もしっかりできました。自分1人では経験できない体験を多くすることができ、たくさんの刺激を受けました。本当にありがとうございました。

以上になります。

○内田委員 後日で結構ですので、ほかのも見せてください。と同時に、何人かもし可能であれば市の広報紙か何かで御紹介してもらえばいいんじゃないかなと思います。これは私の意見ですけど、よろしくお願いします。

○杉山文化スポーツ振興課長 参考にさせていただきます。

○石原委員 すばらしい感想文ありがとうございました。幸い行かれた子供さん、すごい体験を
実際目の当たりにされて本当に貴重な体験だったとは思いますが、恐らく行かれた皆さん
そういった内容に近い感動的な感想文をお出しいただけるものとは思いますが、我々議員
ですのでこの事業についても検証をしっかりとさせていただかんとあかんのじゃないかなと思
います。今日一応お願いはさせていただきましたけれども、8月に行われた2回にわたる事業の内
容、精算をされて中身について今日間に合えばお出しいただけるかなと思ったんですけど、今
日この時点では出ておりませんので、まだということで、業者へのお支払いはいつ頃予定をされ
て、精算がなされて我々のほうへ出てくるのはいつ頃と目しておったらよろしいでしょうか。

○杉山文化スポーツ振興課長 全てが確定してから説明をさせていただこうと考えております
が、今の時点ではいつ頃ということもまだ申しかねるところです。

○石原委員 しっかりと精算されて精査されてお出しをいただければええですけども、これ何
分約1億3,000万円という予算規模のところはかなり市民の皆さんにもインパクト大であり
まして、とにかく行かれる方の自己負担が0で備前市が全て賄うというところの注目も集まって
おりますし、昨日でしたか、岡山県西部のほうへちょっとお邪魔する機会ございまして先方さん
の方々もかなりこのこともネット等のニュースで取り上げられましたので、備前市というだけで
この事業なんかも話題に上って、かなり関心も高かった事業と思いますので、しっかりと検証も
させていただきたいと思います。ちょっと確認で、この事業は随意契約で行われましたけど、単
価での随意契約だったと思うんですけども、お一人幾らでの契約でしたか、1人当たり。

○杉山文化スポーツ振興課長 まず、こちらの契約につきましては、入札を行っております。入
札を4口に分けて行った結果、1口については落札されておりますが、その他の3口については
最終的には随意契約になっております。金額といたしましては、1口については1人当たり49
万円、残りの3口につきましては1人当たり51万円という結果になっております。

○石原委員 この入札についても2社が応札されて、1社は単価で出されて、1社は合計金額で
出された、それぞれの会社の事情、お考えもあるでしょうけれども、不思議な入札のように捉え
たんですけど、あくまでお1人当たり60万円の予算でございましたんで、今言われた金額4
9万円、また51万円というようなところでございますので、60万円との差異もございませ
んで、しっかり精算された事業内容についてまた確認をさせていただきたいと思いますので、よ
ろしくお願いいたします。

○松本委員 今感想文を読まれて非常に美しい話だなと、だけどこの感想文が1人当たり60万
円の価値があるかということを考えてときに、私は到底納得いかないです。それと、今いい感想
ばかりが集まってこれからPRもいい感想ばかりが前面に出てやるんだろうけど、やっぱり市民
がどう思うかということをもうちょっと深く分析してほしいと思う。行った人は当たり前で
す。修学旅行行っても当たり前です。アメリカじゃなくて韓国に行っても東南アジアとかヨーロ

ッパに行こうが、行ってよかったという感想が普通はあるんです。それを何かロサンゼルスが美談のように特別に語られるということについて、非常に問題だと思う。感想文が60万円の価値があるかというたら、私は到底思えないです。

だから、ちょっと何か偏った議論がこれからされていくんだなということについて非常に危惧を感じる。感想ですけど、以上です。

○杉山文化スポーツ振興課長 先ほどは、お一人の感想文を紹介させていただきました。それについては行った後のすぐの感想でありまして、今後それぞれの子供たちが高校進学、大学進学、それから就職といった人生の節目に当たってどういった影響を及ぼされるかについては目には見えないものですし、どう分析していくかも難しいことではありますが、実施した私たちとしてはこの経験がこれからの人生、そして備前市のためにも何かなっていってもらえるのではないかと思っているところです。

○松本委員 私、そういう答弁が非常に欺瞞だと思う。1人60万円がどういう価値、重さを持っているかということをもうちょっと深く考えんといけんのじゃないか、それと気になるのは来年もやりますとか、何となく市長が何かそれをにおわせるような答弁しますから、さっき言ったように行った人が感激したというのは当たり前です。そういう美談を来年もやることの根拠として、また議論されるのかなと思ったら非常に情けないと思う。

以上、感想いいですから、これからまたこれについては発言していきたいと思います

○森本委員長 よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、以上で所管の調査を終了いたします。

以上で総務産業委員会を閉会いたします。

午前11時07分 閉会